



# 友母願望

すぴか屋

私にも隙は  
ありました

絶対に：

内緒  
だからね

押忍っ

ケンが帰ってくる前に：

息子の友達の  
アツシ君

おおっ

イイ匂い

感激ツス

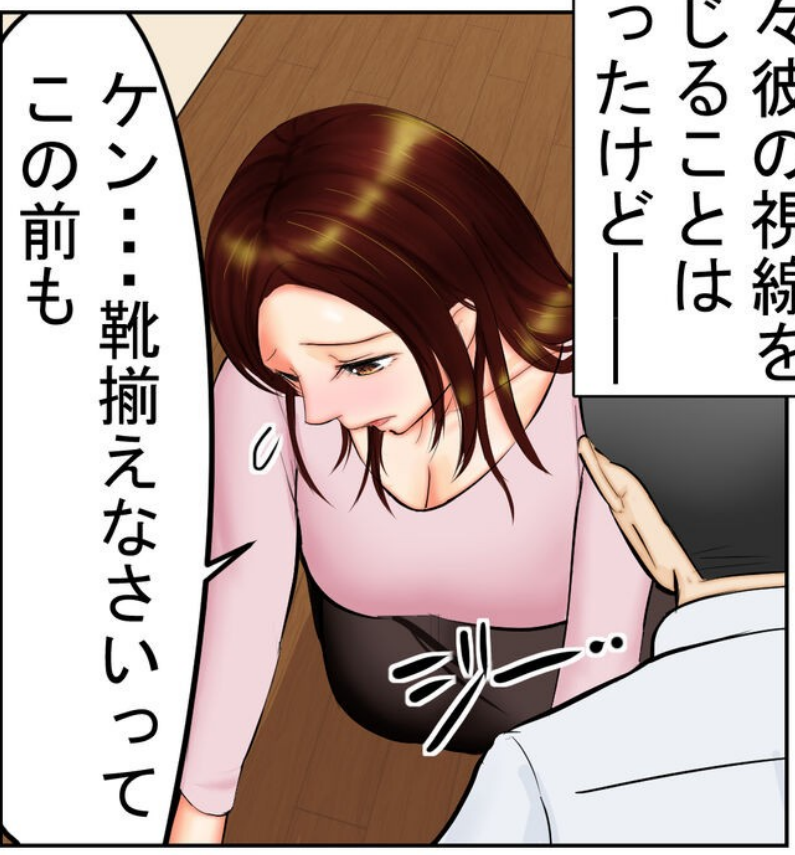
で 同じマンブション

だらっしやい

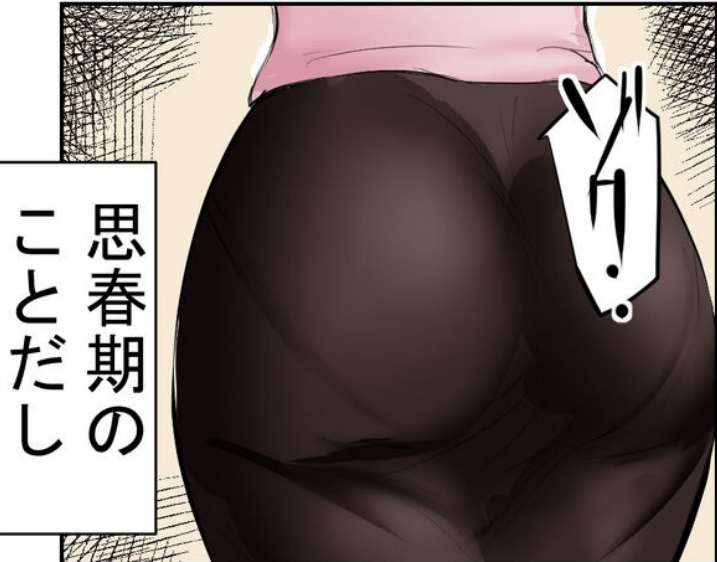


昔から よく遊びに来てた

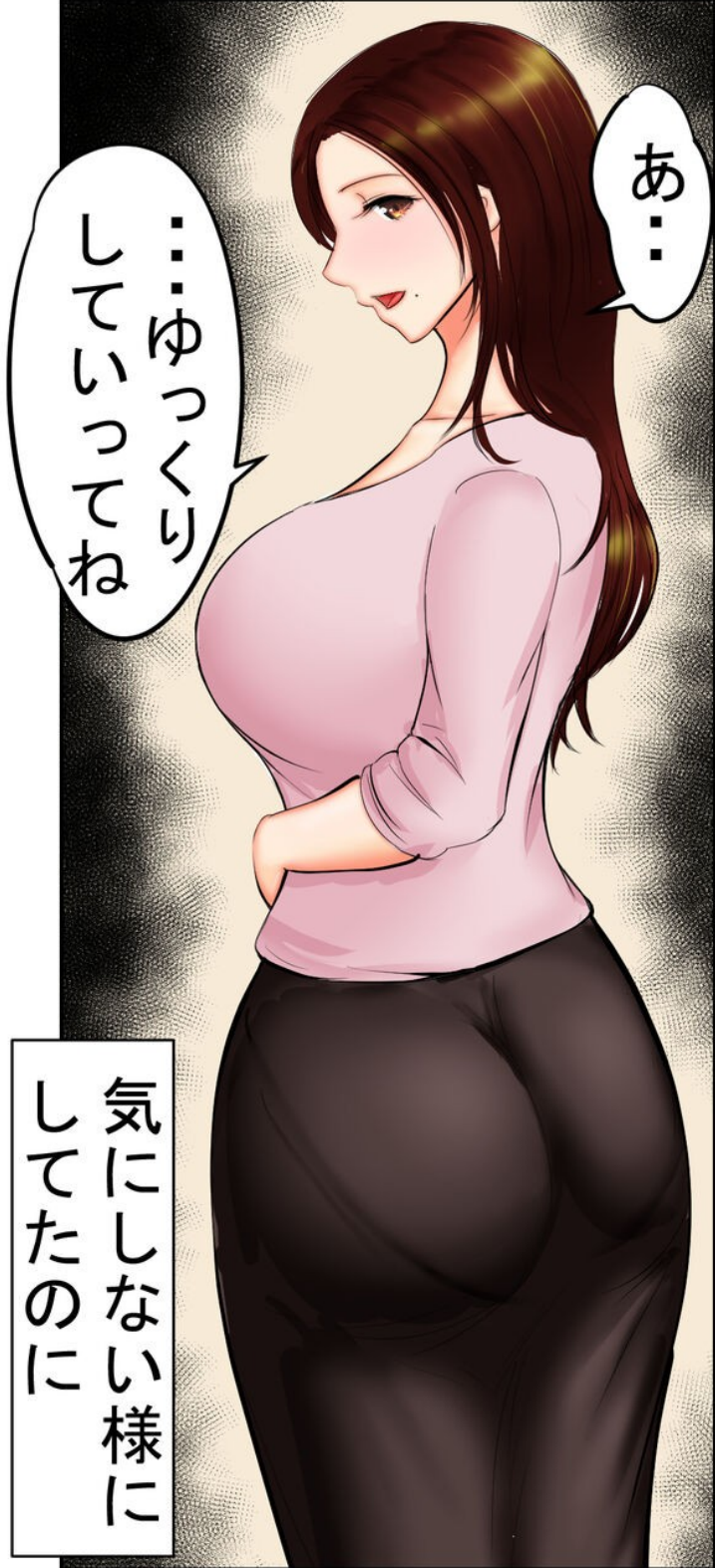
時々彼の視線を 感じることは あったけど――



ケン：靴揃えなさいって この前も



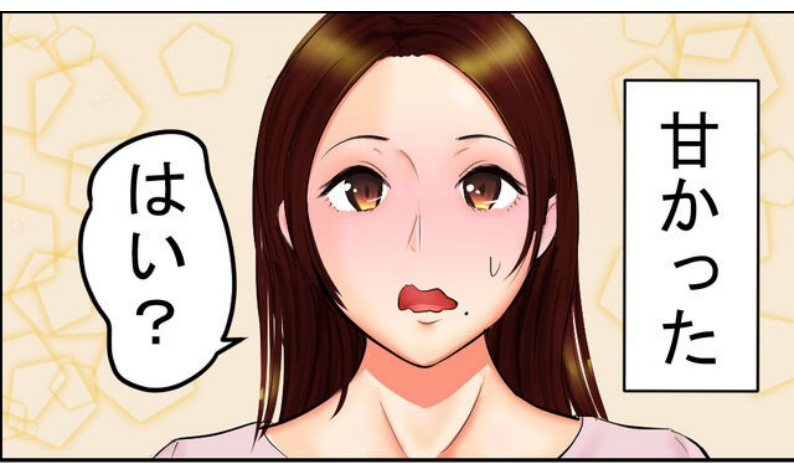
思春期の ことだし



あ：

……ゆっくり していったね

気にしない様に してたのに



はい？

甘かった



好きですっ



昔から何でもストレートだったアツシ君

結衣さん 独身ですよ

俺、本気ですっ

落ち着いて お茶淹れるから ね？

今「はい」って

あれはとっせいに



毎日ー

お願いしますっ



毎日ー

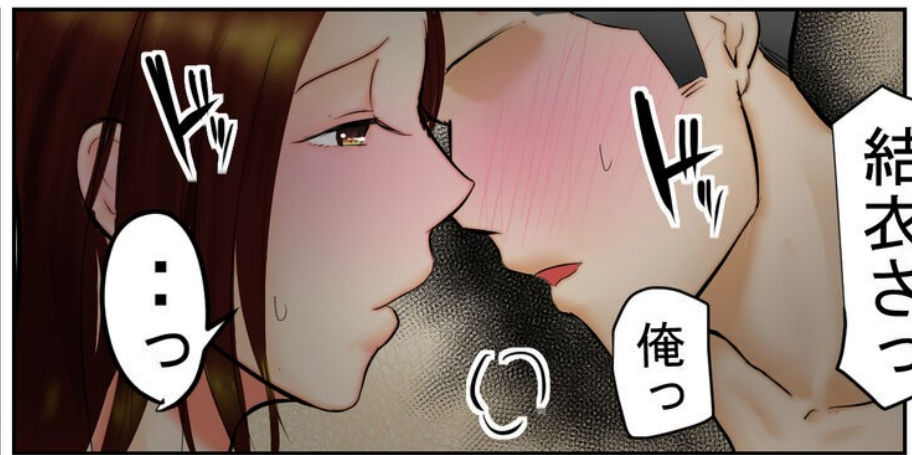
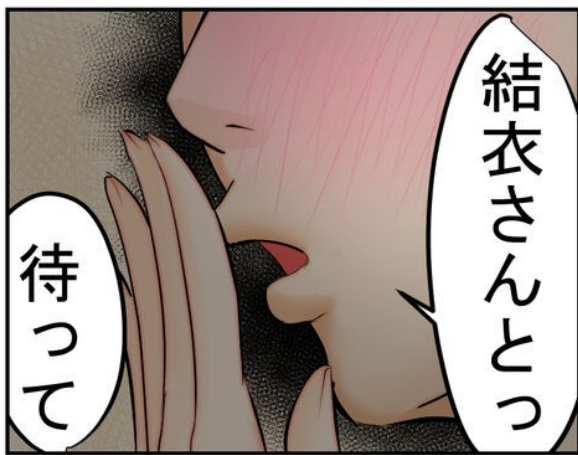
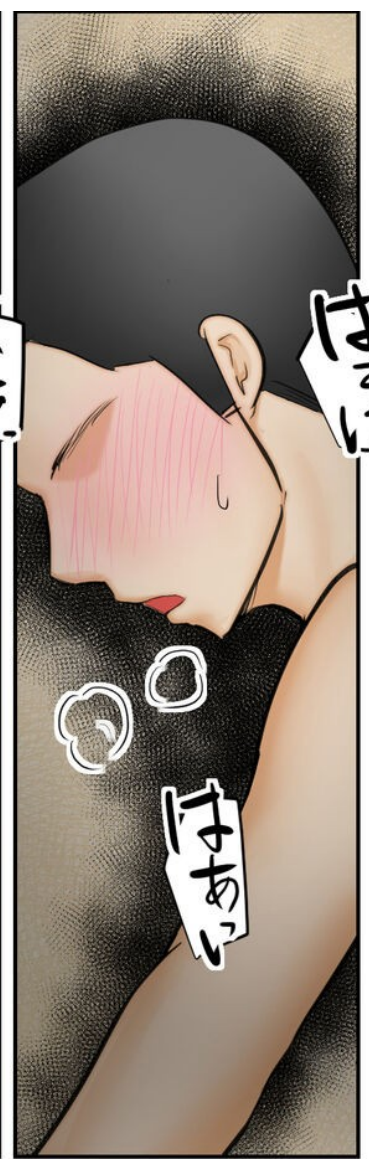
それ以来毎日ー



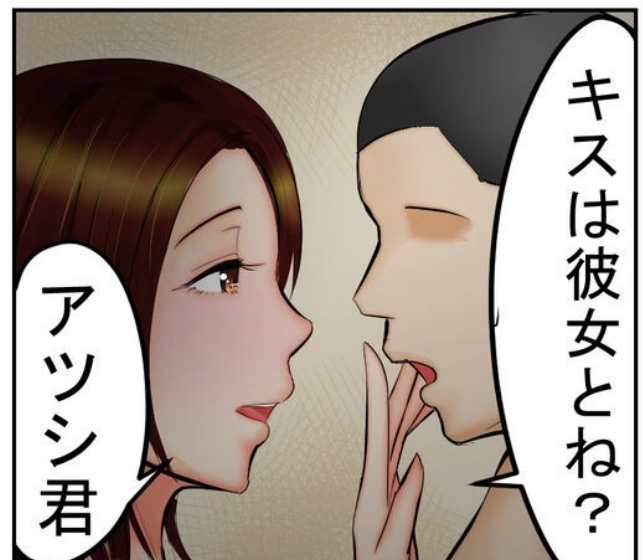
思ってた以上に情熱的で

お願いしますっ

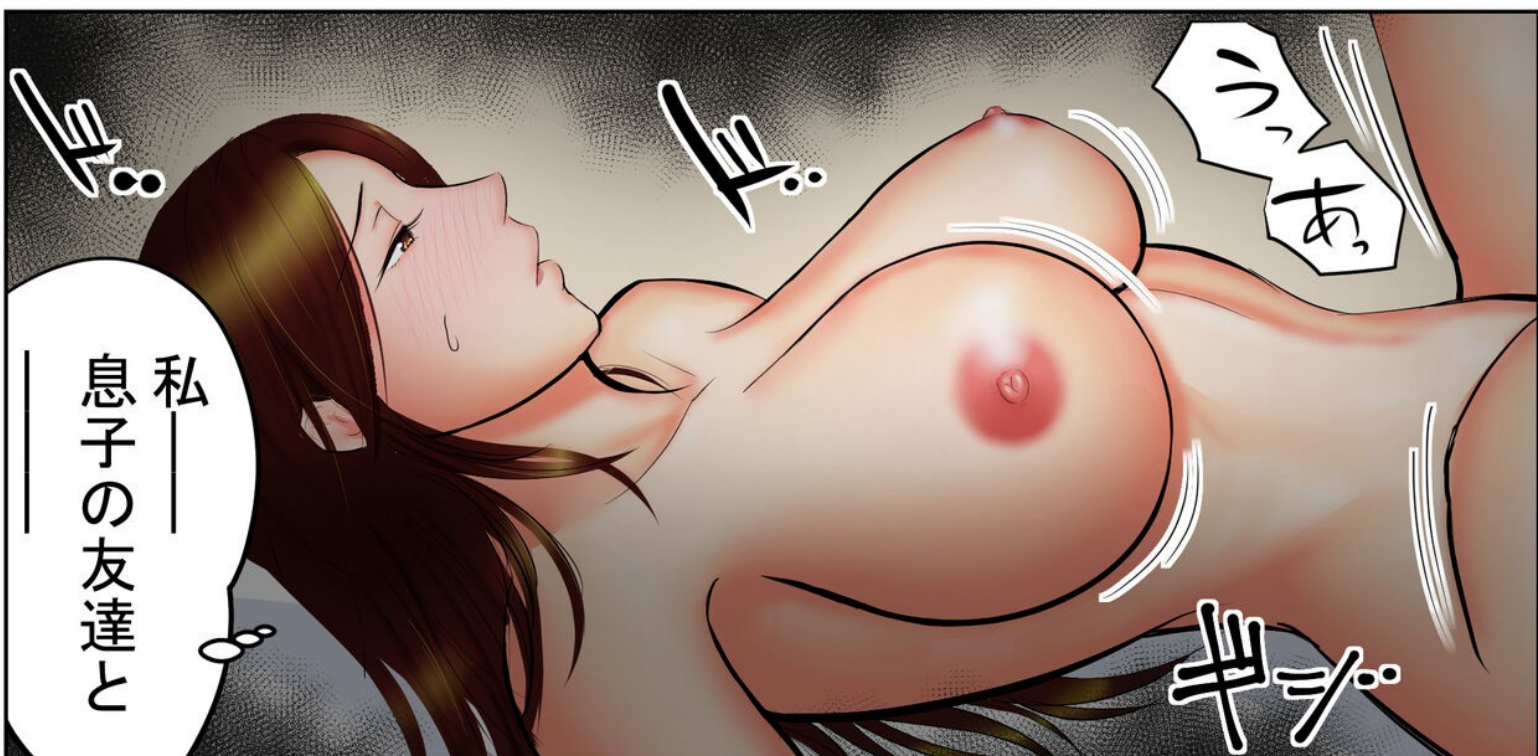
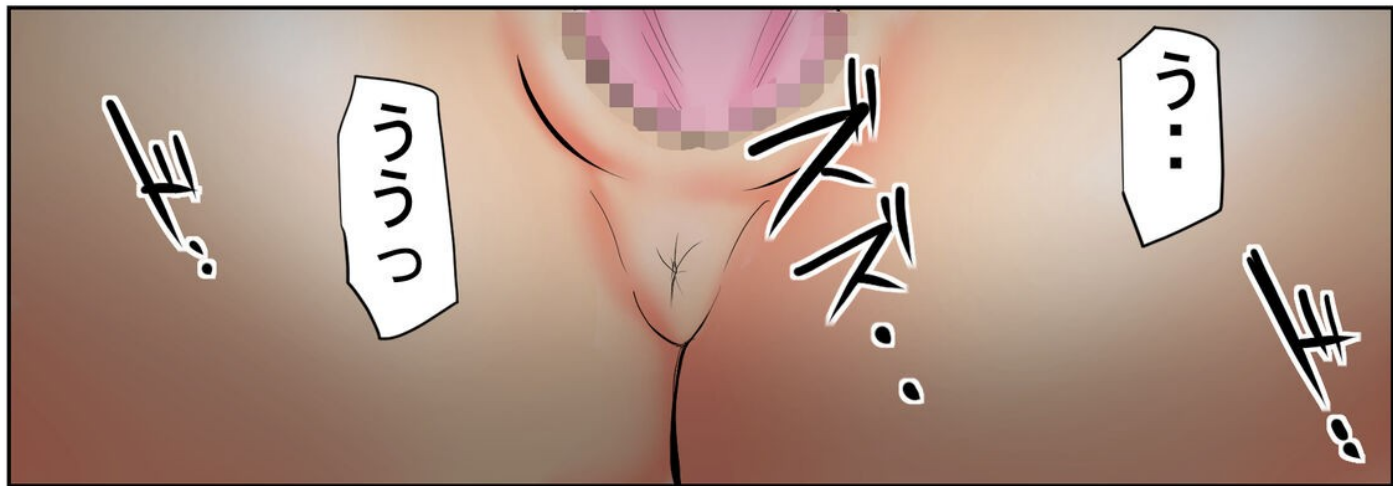
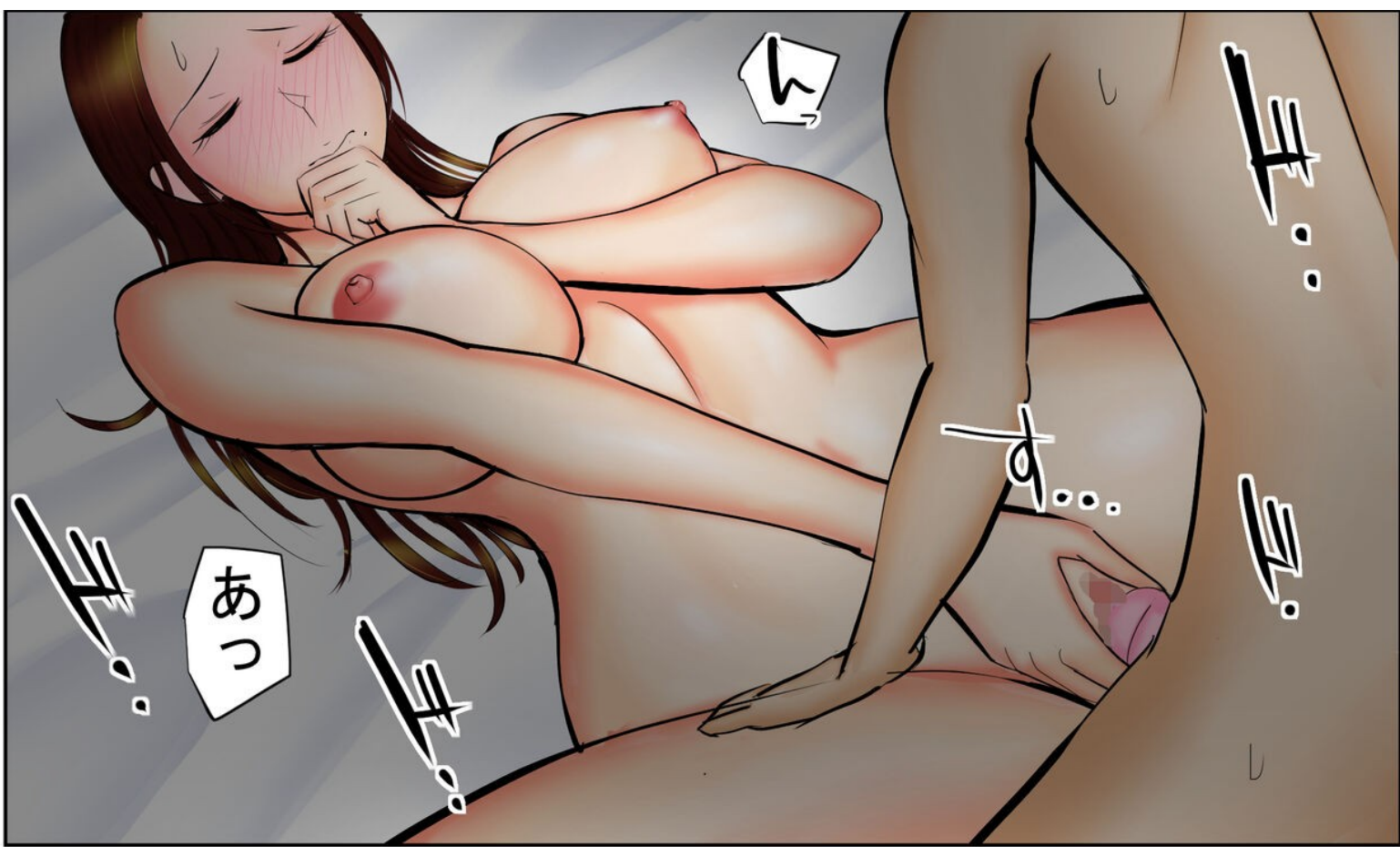
やめて



久しぶりで  
リードできるか  
不安だったけど









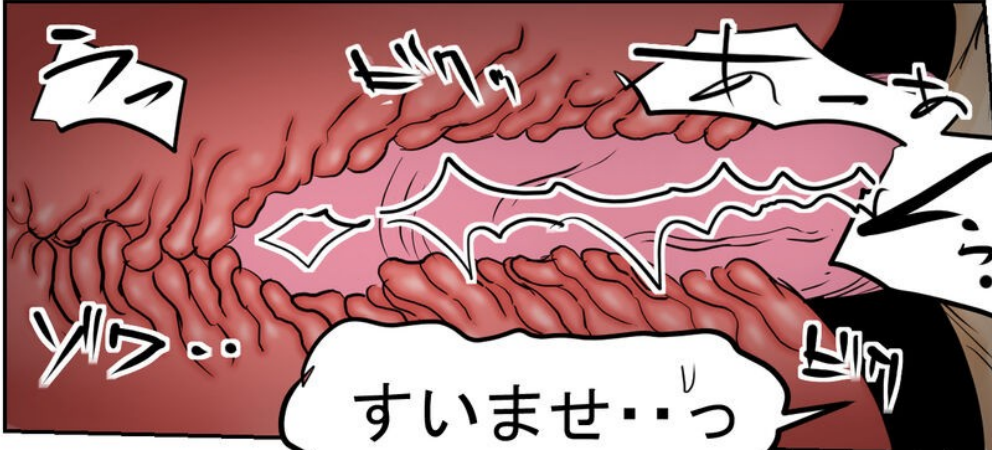
憧れの  
結衣さんと

俺っ  
感激っス

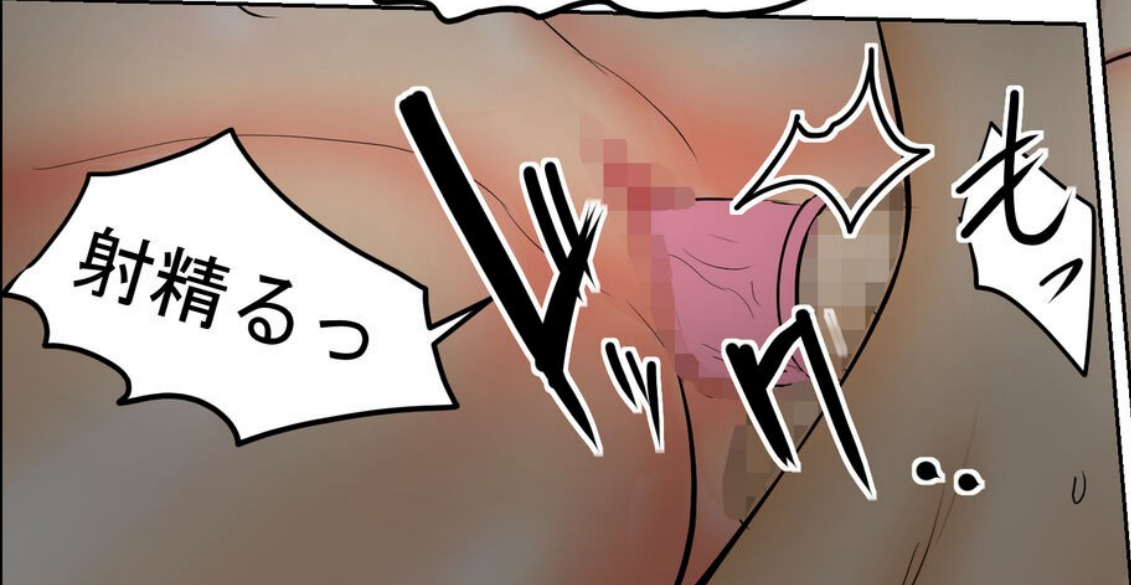
んっ

はぁっ

はぁっ

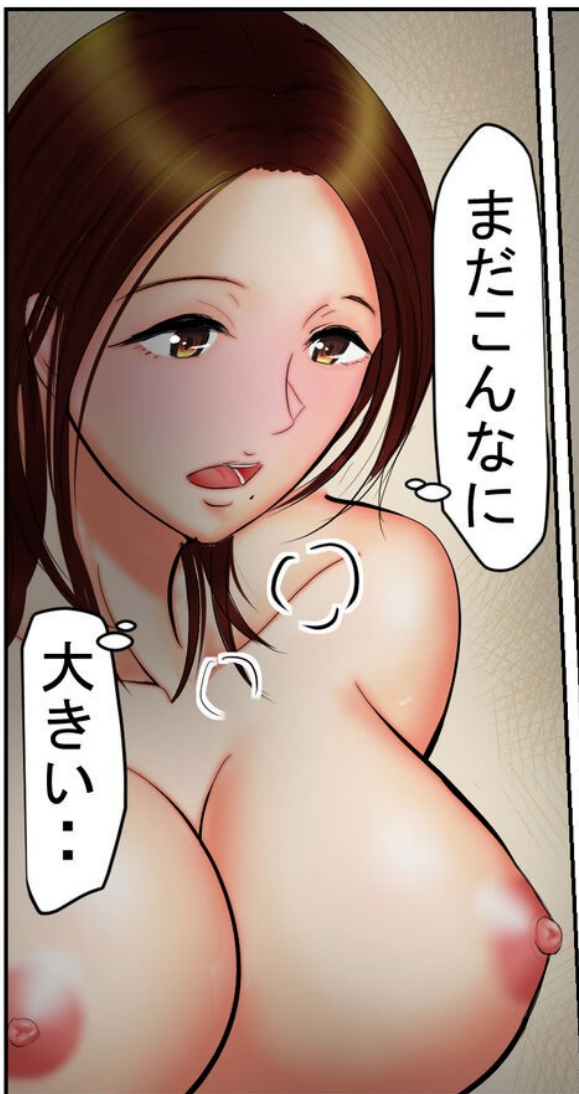
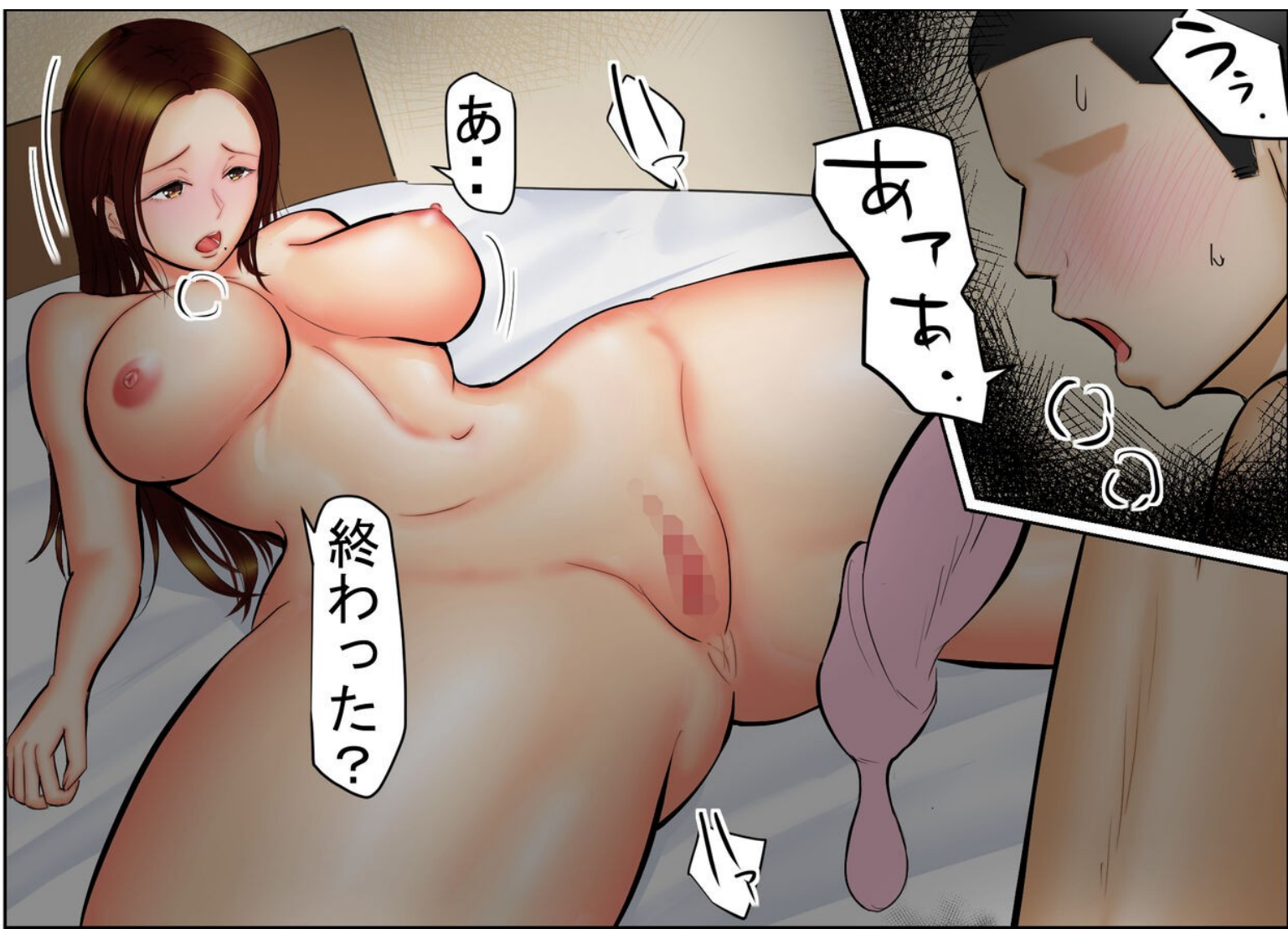


すいませ…っ



射精るっ

アツシ君…





あー

あー

ゴキッ

ゴキッ

固い...

ちっきよりも



まだ  
したいっ

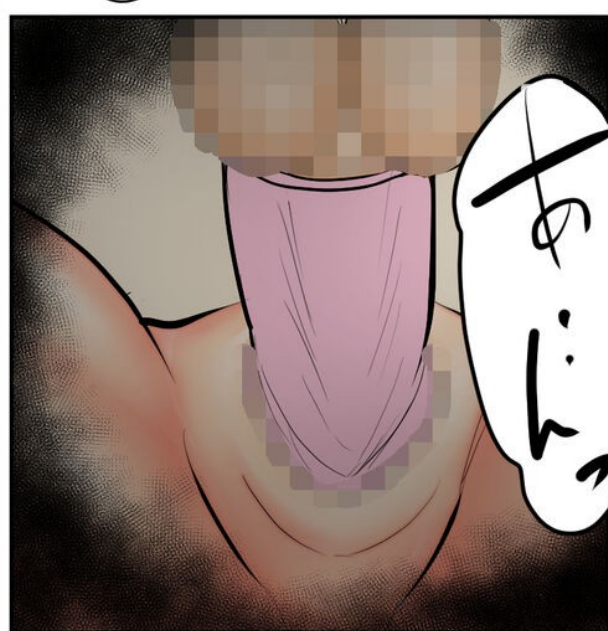
したいっス



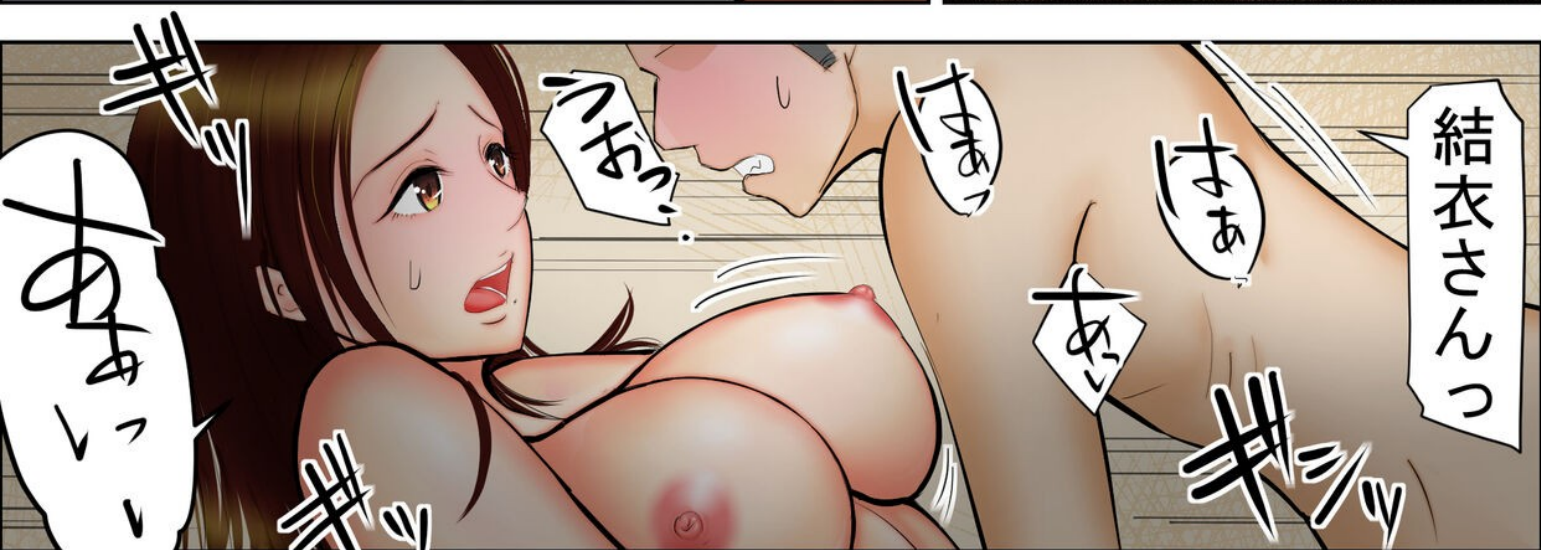
待って

またつけないと

そう



あー



あー

あー

あー

あー

あー

結衣さんっ

あー

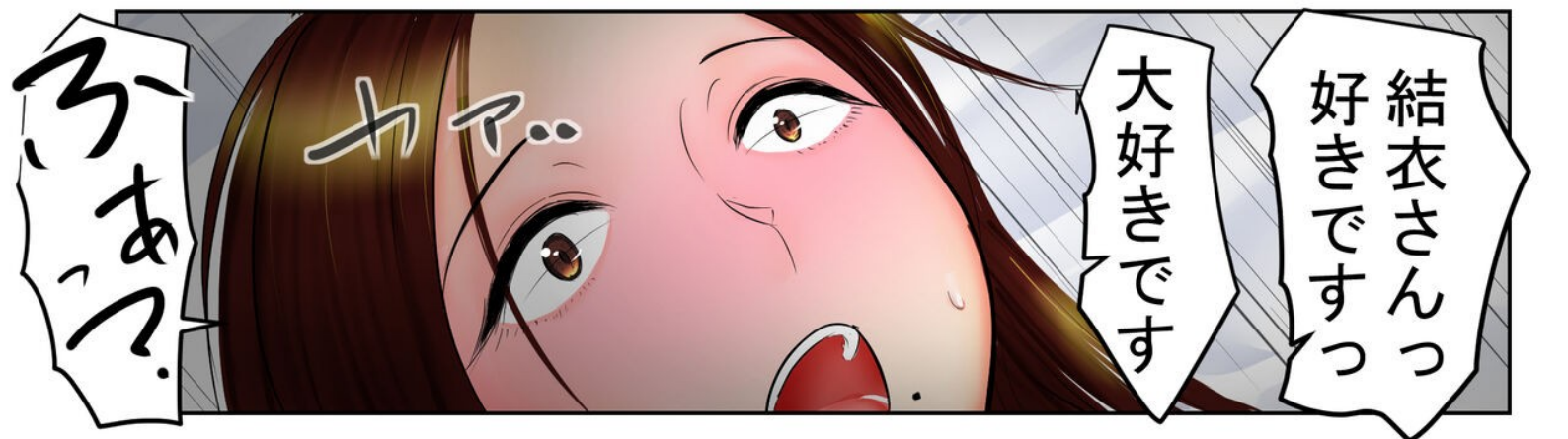


結衣さんっ のっ

もっとお奥にっ

ズッ  
ズッ

っ



結衣さんっ 好きですっ

大好きです

カア..

ふぁっ?



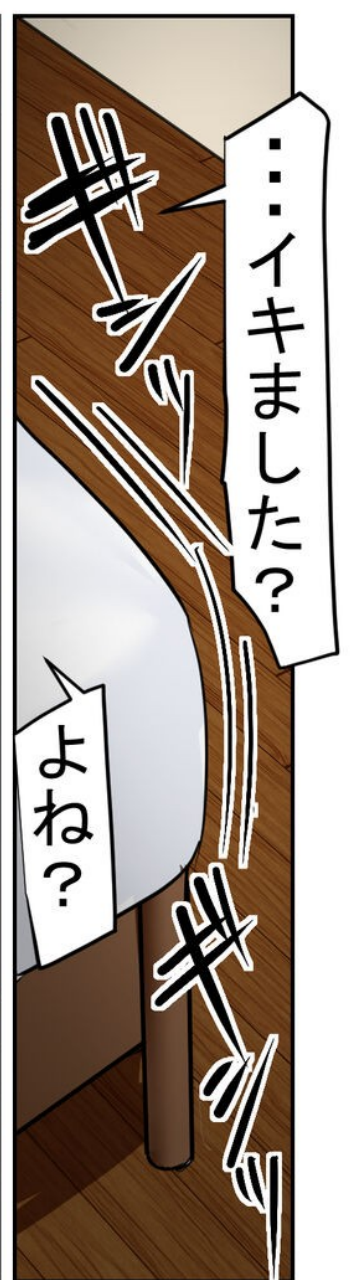
だめっ

こんな

しながら...っ

ズッ  
ズッ

っ  
っ  
っ



ゴリッゴリッゴリッ  
ゴリッゴリッゴリッ  
ゴリッゴリッゴリッ  
俺がつ

ア・ツシ君

ゆ  
ゆっくりっ

ま、またっ

ゴリッ  
ゴリッ  
ゴリッ

ゴリッ  
ゴリッ  
ゴリッ

ゴリッ  
ゴリッ  
ゴリッ

ゴリッ

ゴリッ

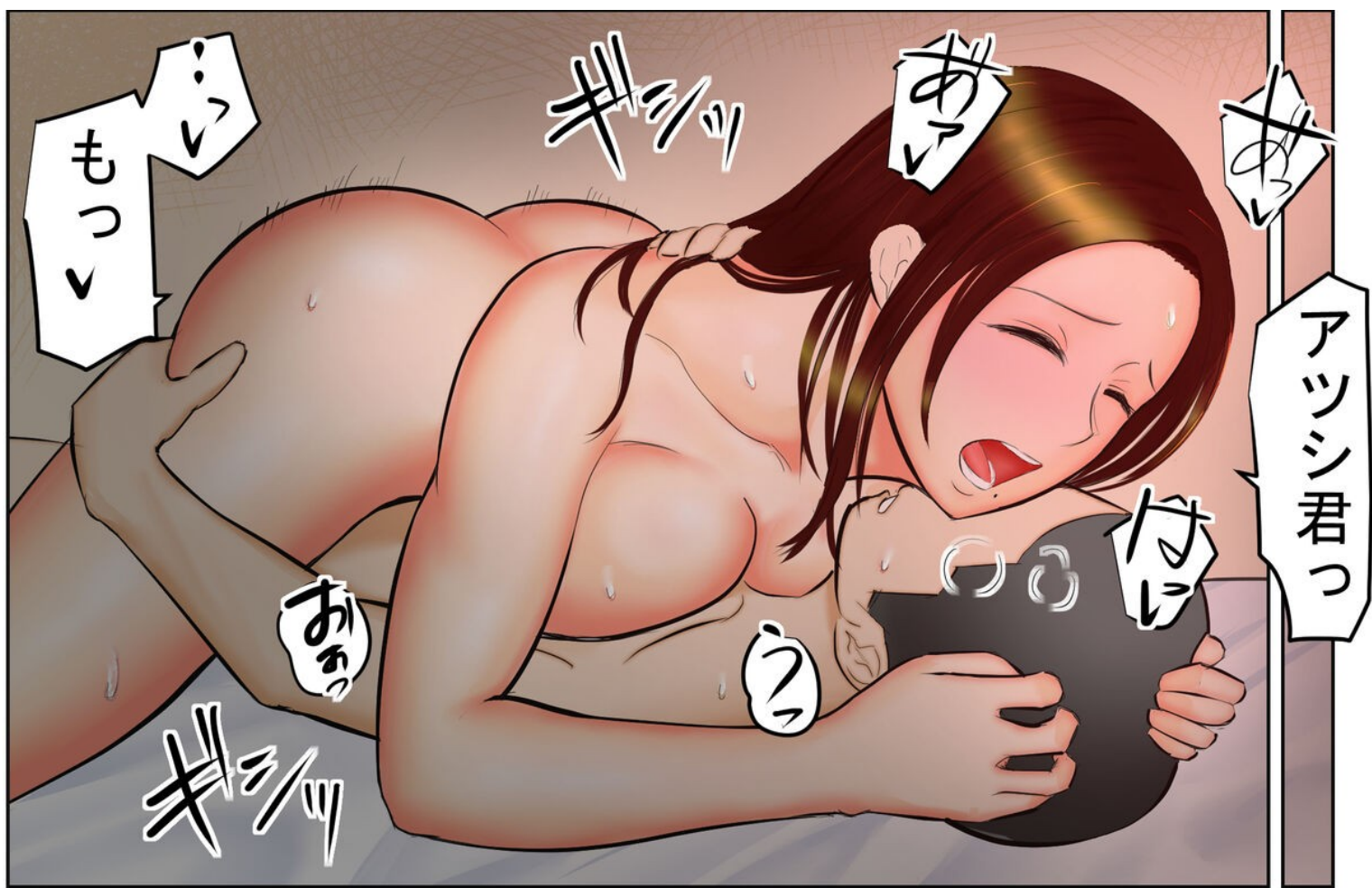
ゴリッ

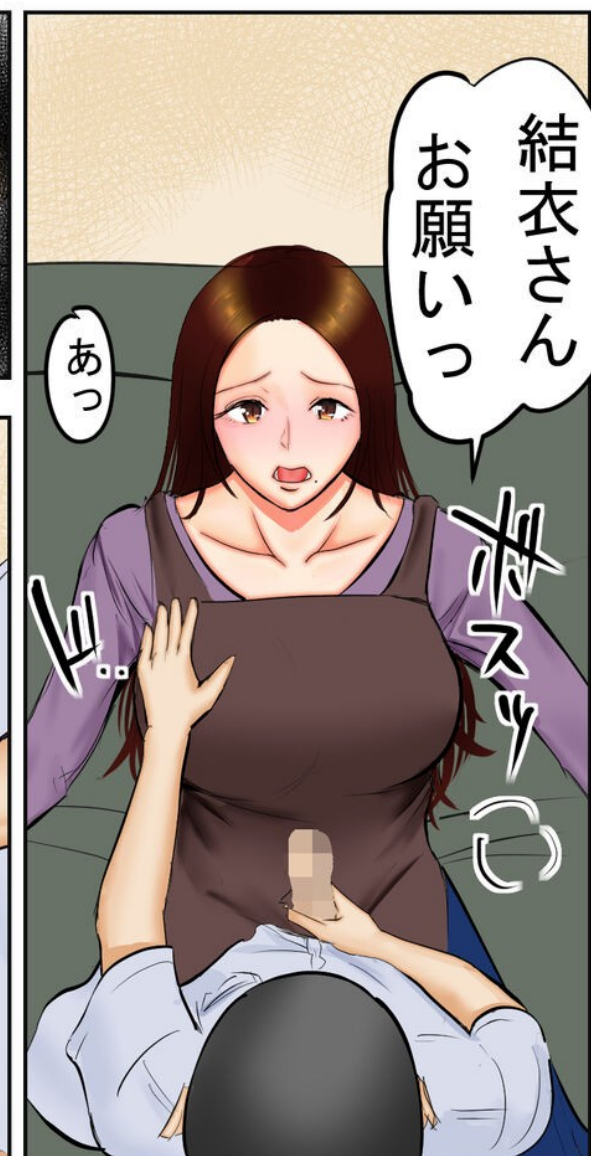
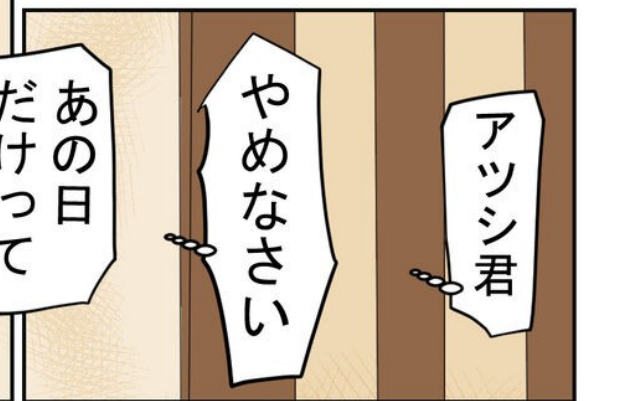
俺がつ

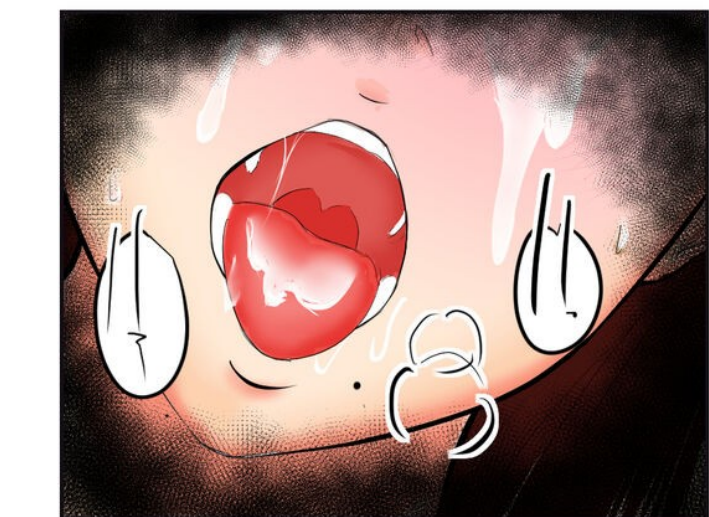
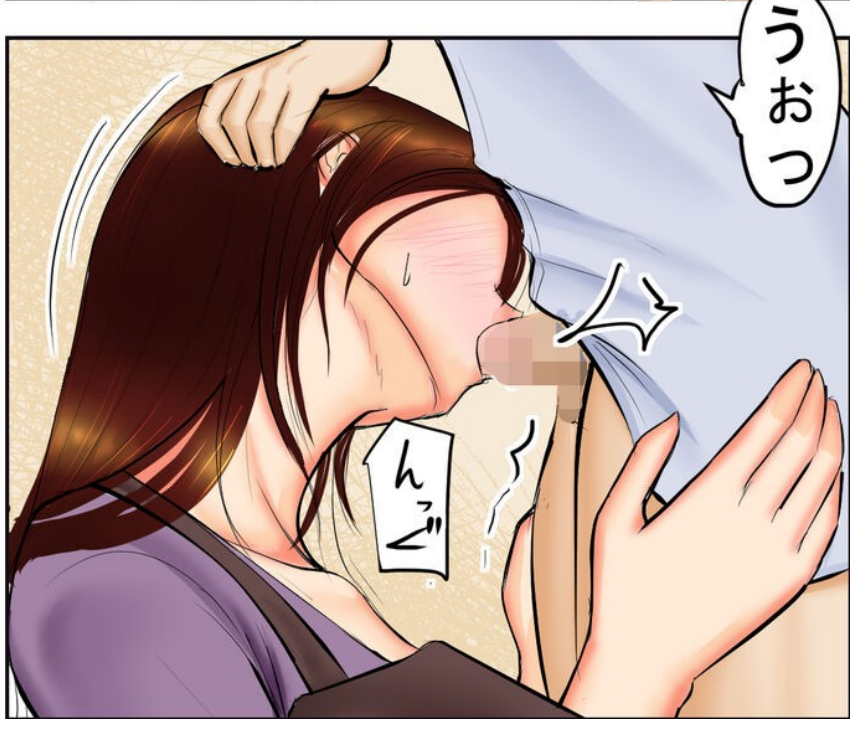
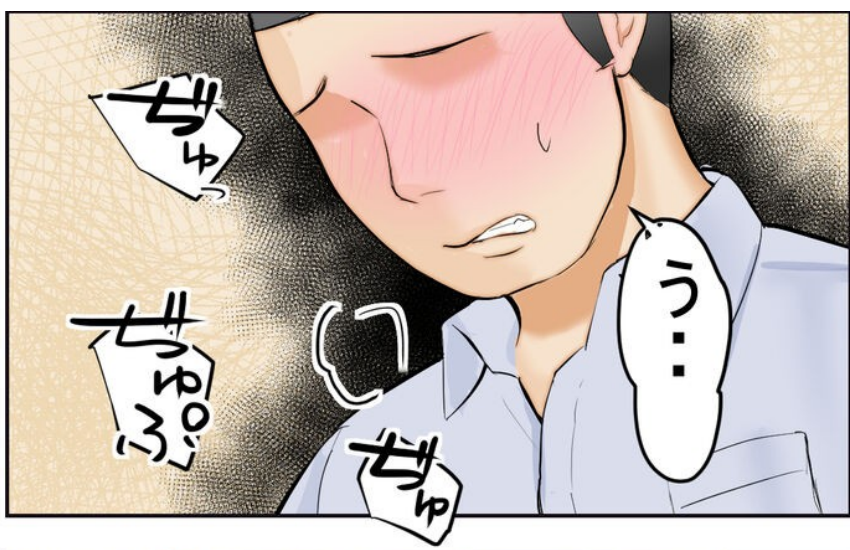
人かせたっ

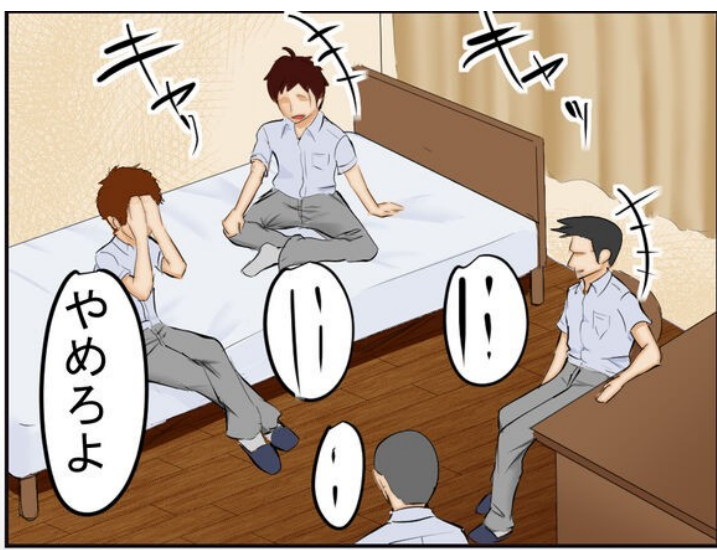
ゴリッ



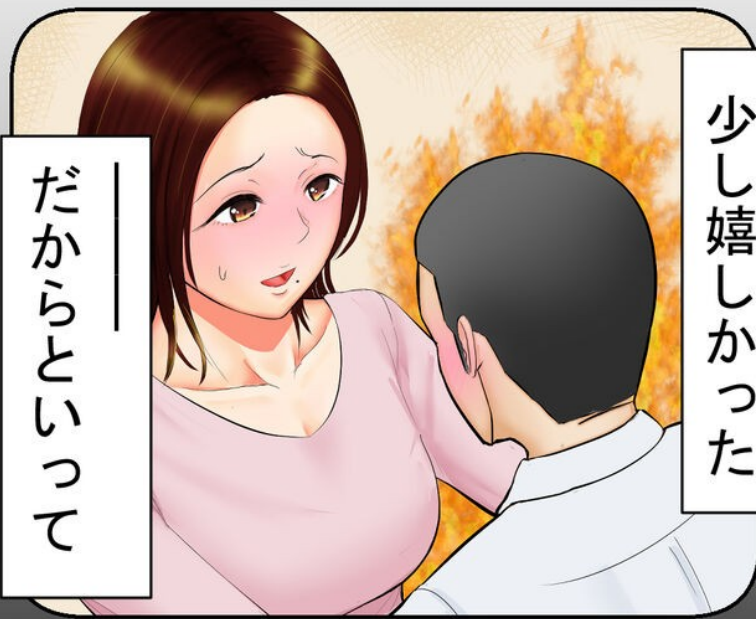
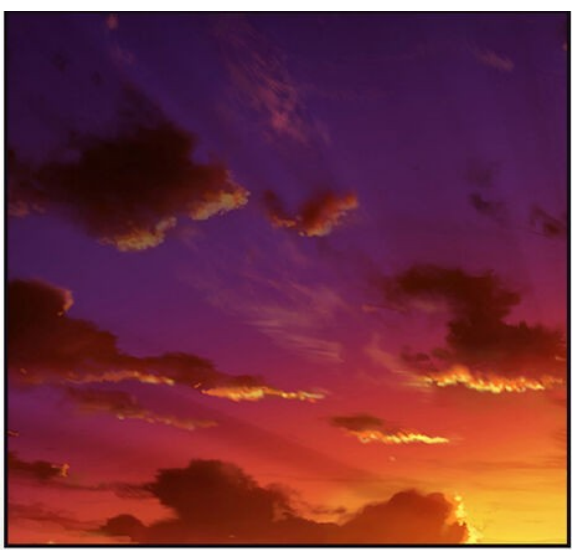








やめろよ



だからといって

少し嬉しかった



アツシ君達  
今日はケンの部屋に  
泊まるって言うってたけど



先か

だめ

はい

俺っ  
結衣さんっ

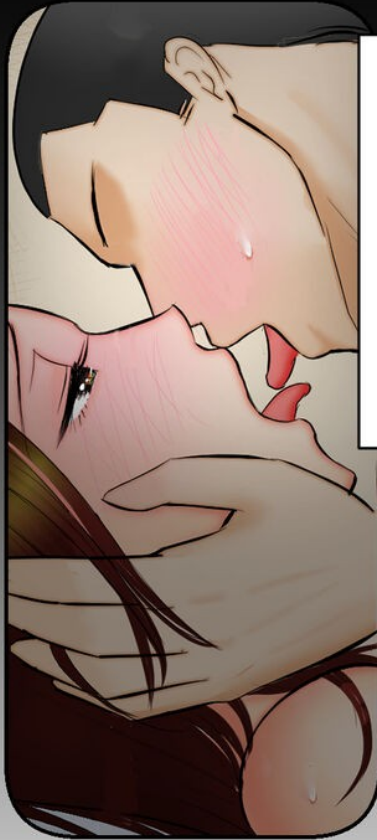
ケンだって  
いつか気づく

いつまでも  
あんなこと



結衣さん

カアア



——  
いつまでも



知りません

もしそうなら  
嬉しいっす

+++



アツシ君

俺の事  
考えてくれてました？



俺も  
結衣さんの事  
考えてたから

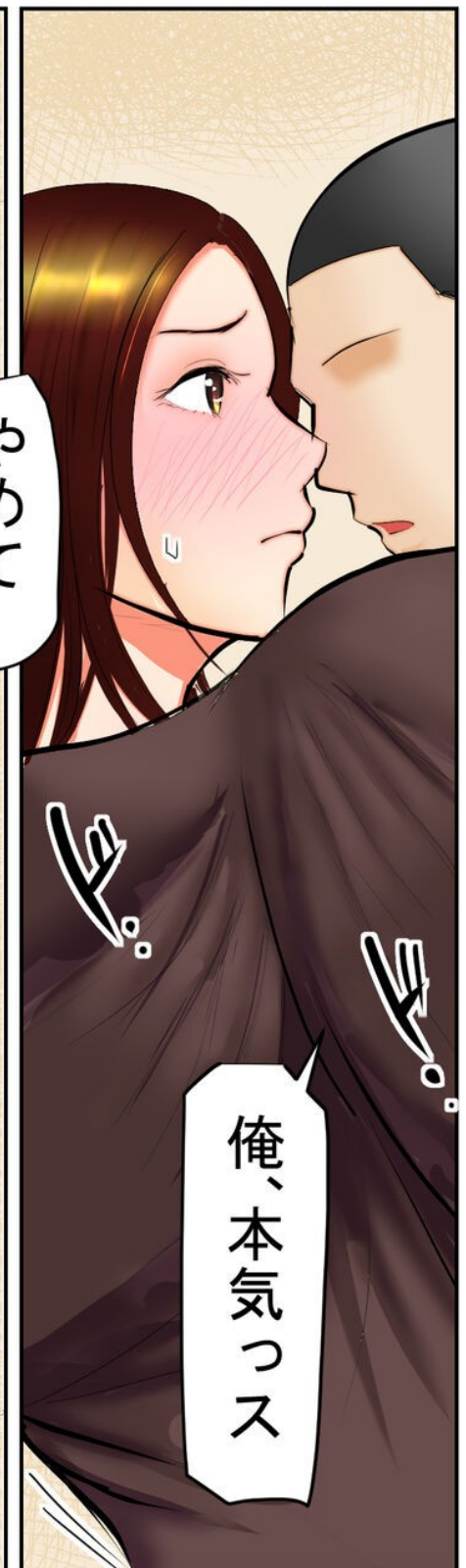


やめなさい

アッ

アッ

アッ



やめり

アッ

アッ

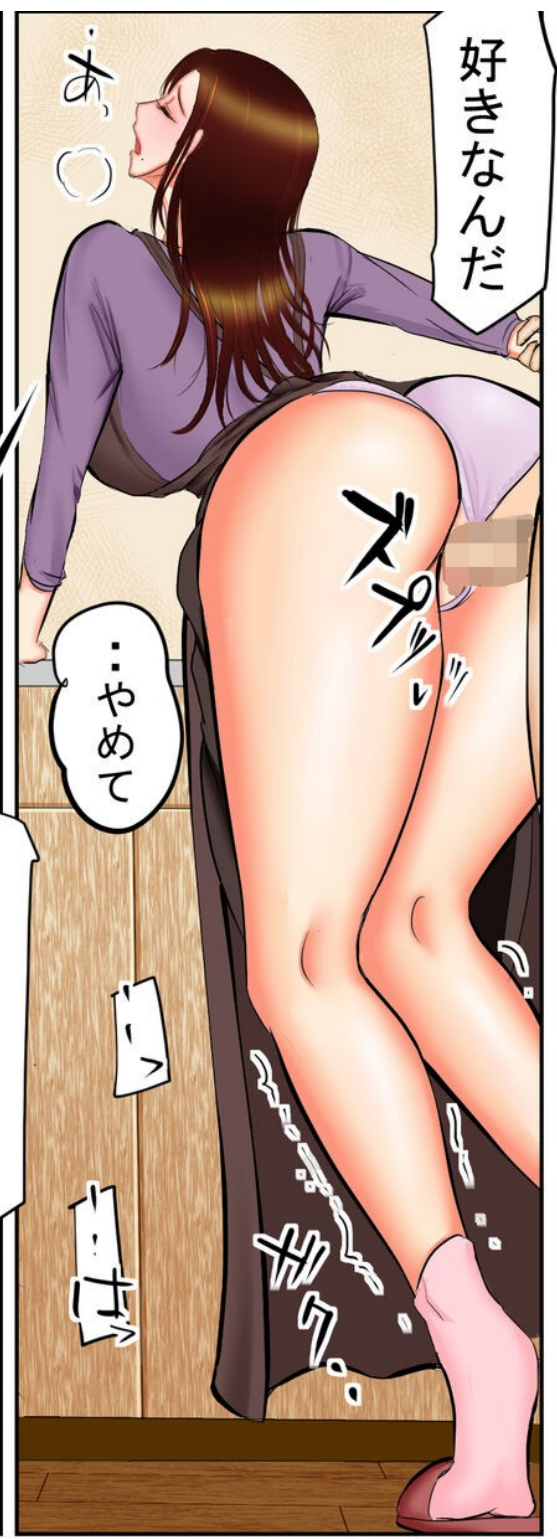
俺、本気っス

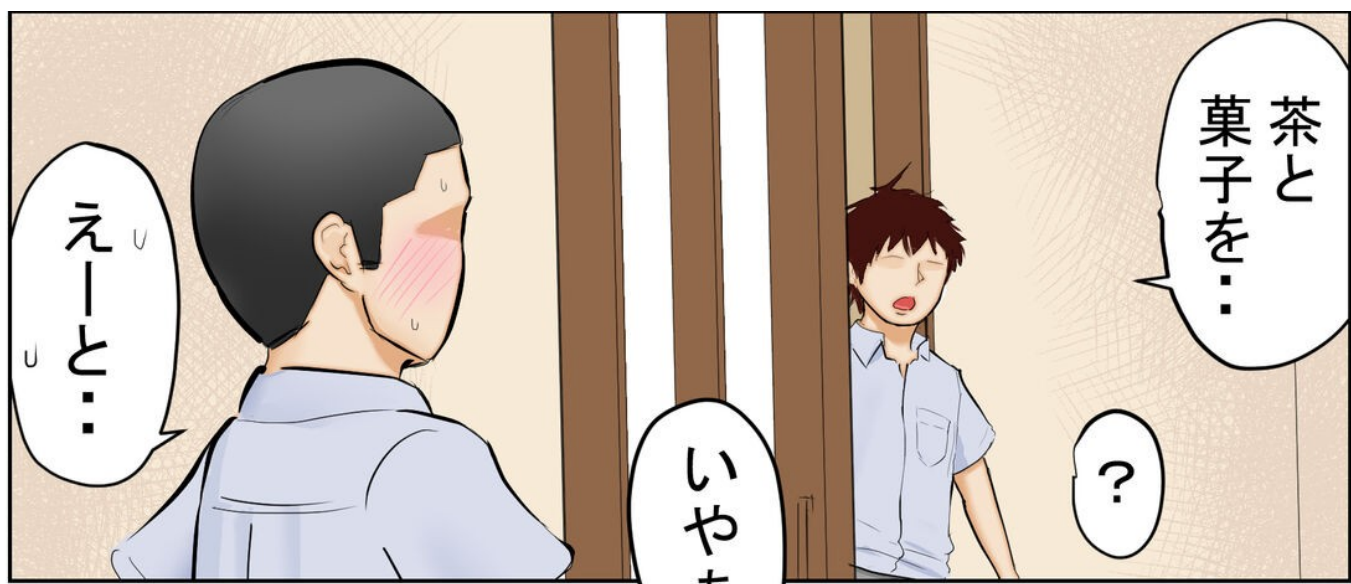
ごめ  
ガマン  
できない

だめ

しまいなさい







茶と菓子を：

えーと：

いやあ

？



何してんだよ

結衣さん一人で大変だろ？



なんか手伝える事  
ないかなって

お前そんな  
気が利く奴だったか？

そ：

それ位な

う？

うん：

ちやる。

ブル。



それもある

んっっ

つまみ食いだろ



先持ってって

俺もっっ  
後から

結衣さん  
ちょっと  
待って

茶と菓子  
そのテーブル  
にあるだろ

イっくよ

うっ

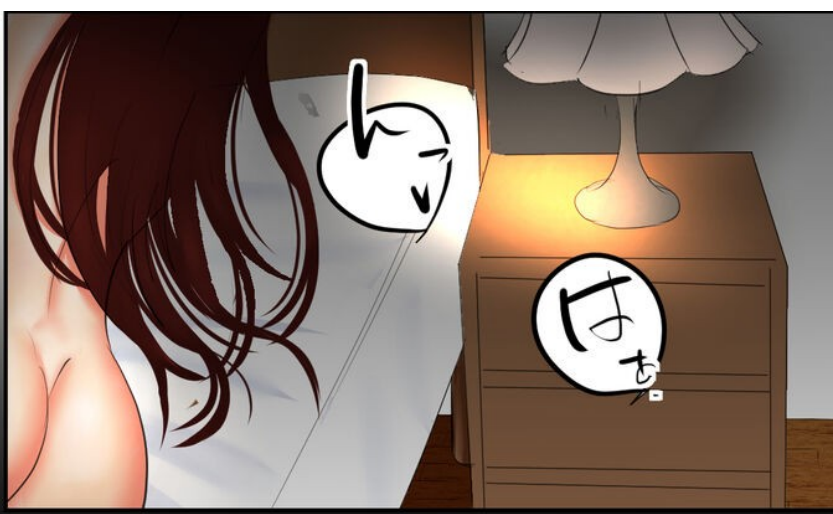


俺も戻るね

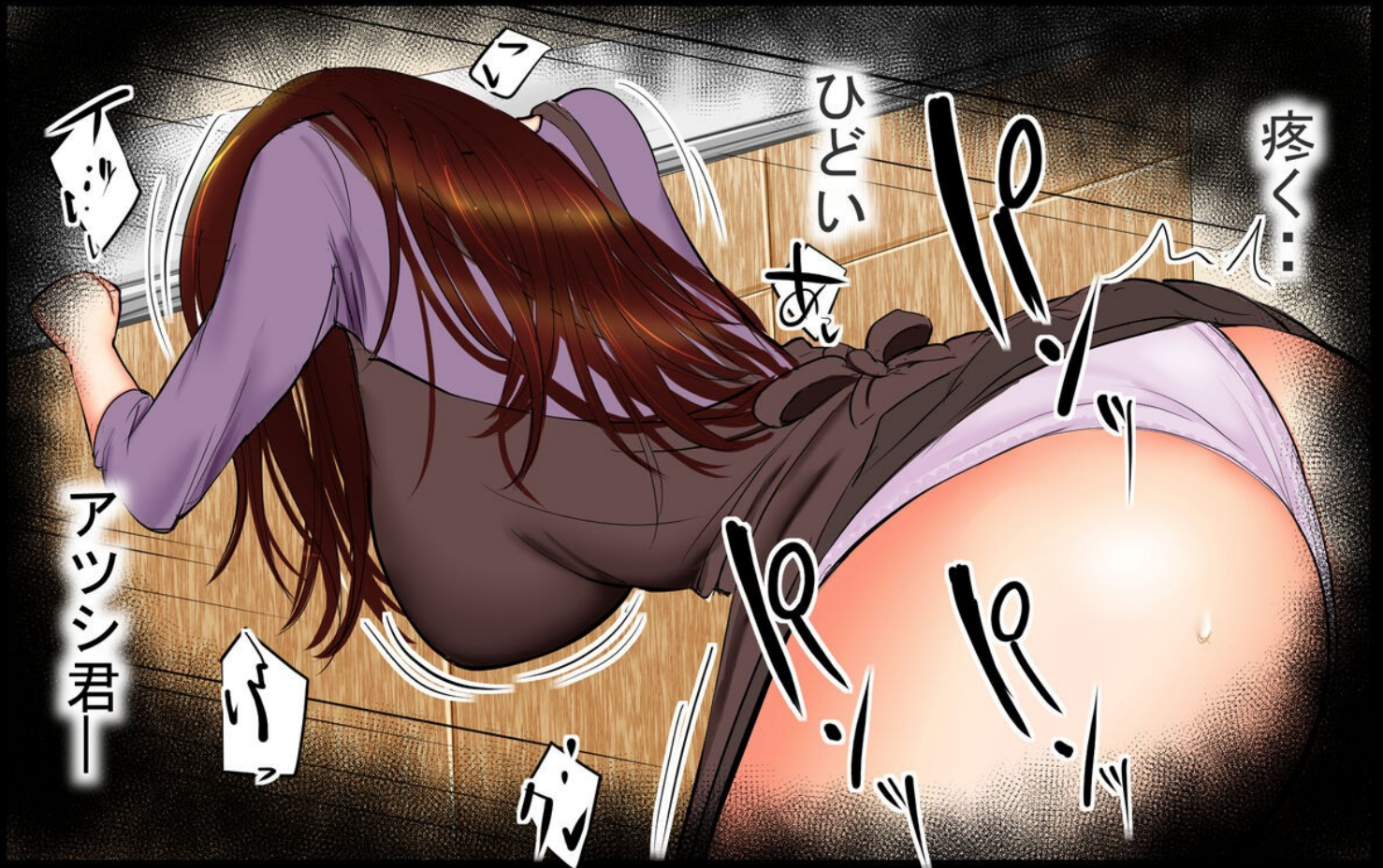
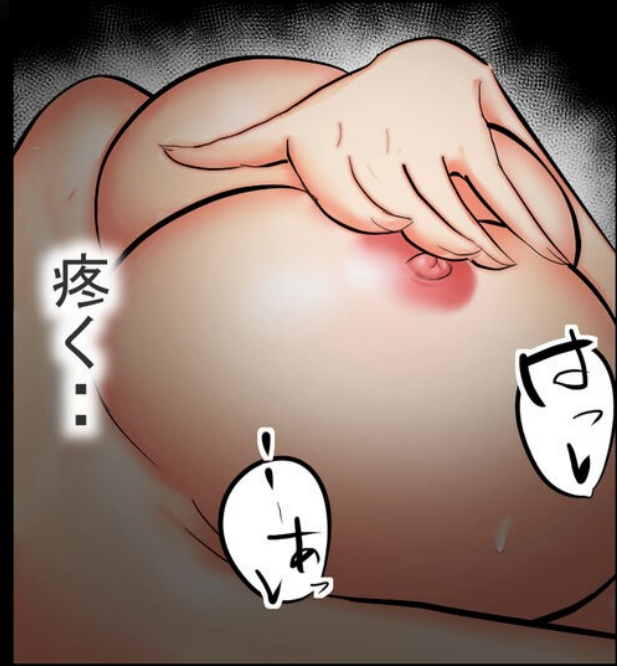
結衣さん  
ありがとう

ふっ

あ



躰の芯が









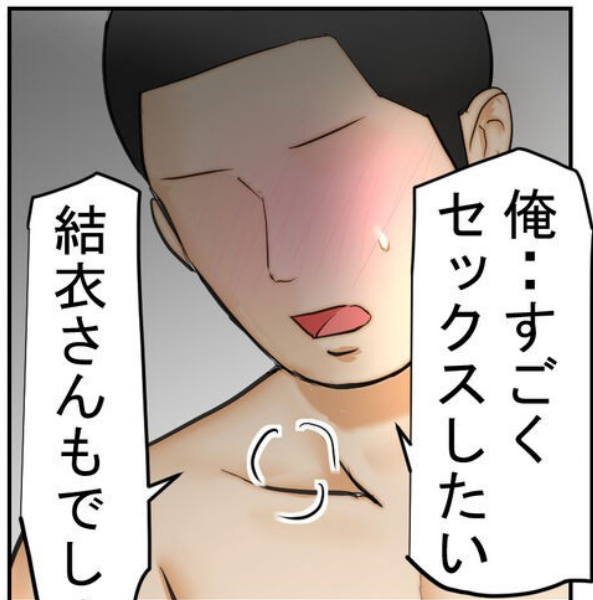


……そう  
我慢してたの

だから

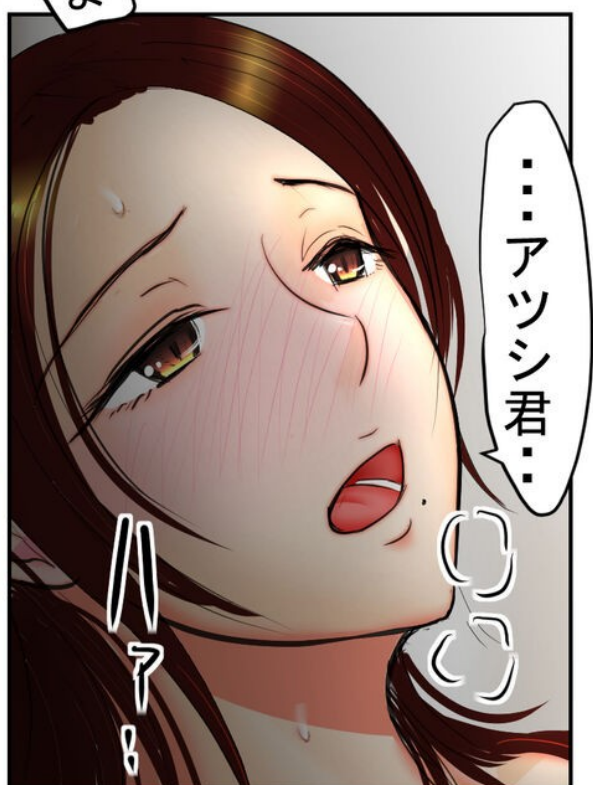
いっばい  
して……

「あ……」



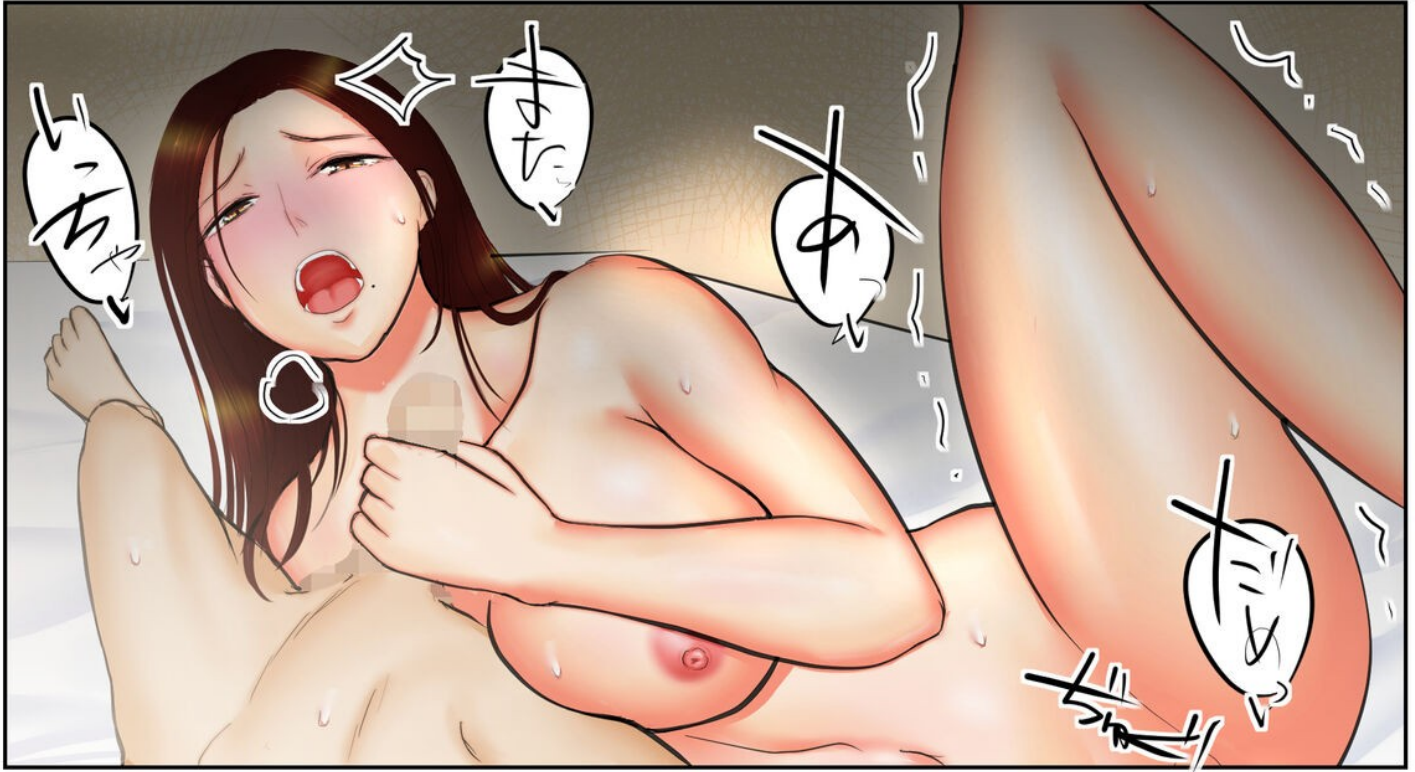
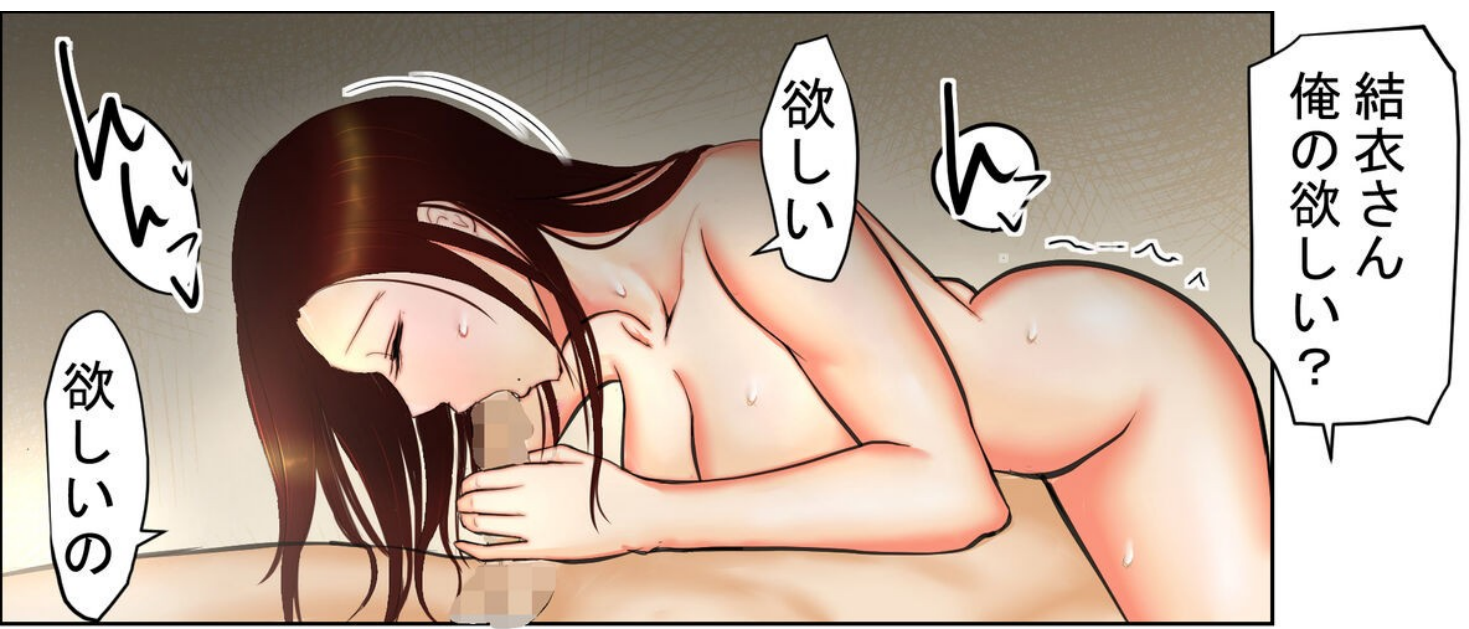
結衣さんでもでしょ

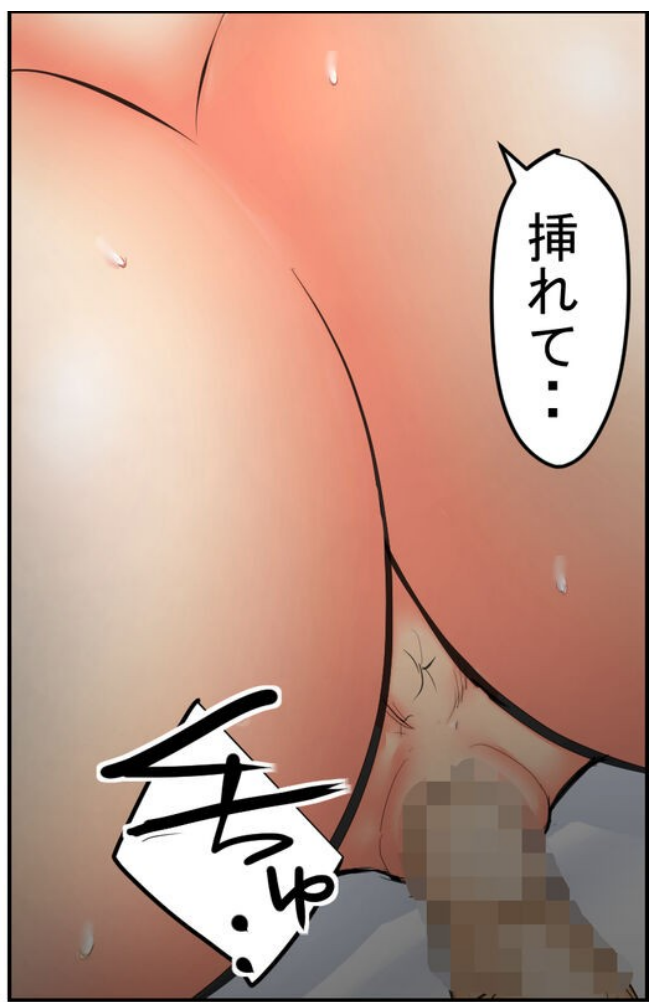
俺……すごく  
セックスしたい



……アツシ君……

「あ……」







結衣さんとおつ

セックス  
してる

友達の  
母親とおつ

ズッ  
ズッ  
ズッ

今俺っ

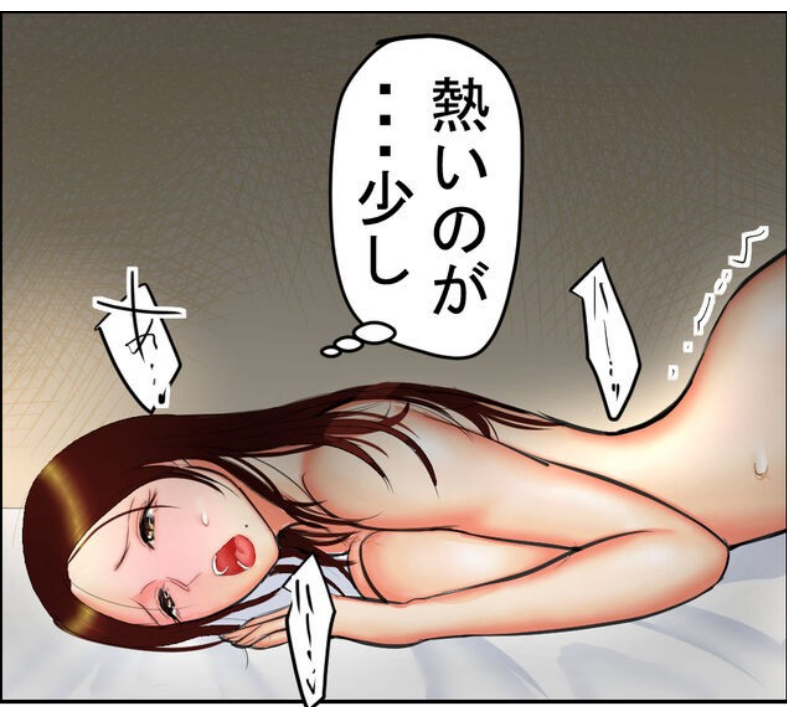


結衣さんの  
膣内の奥まで

突きまくる  
からっ

ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ





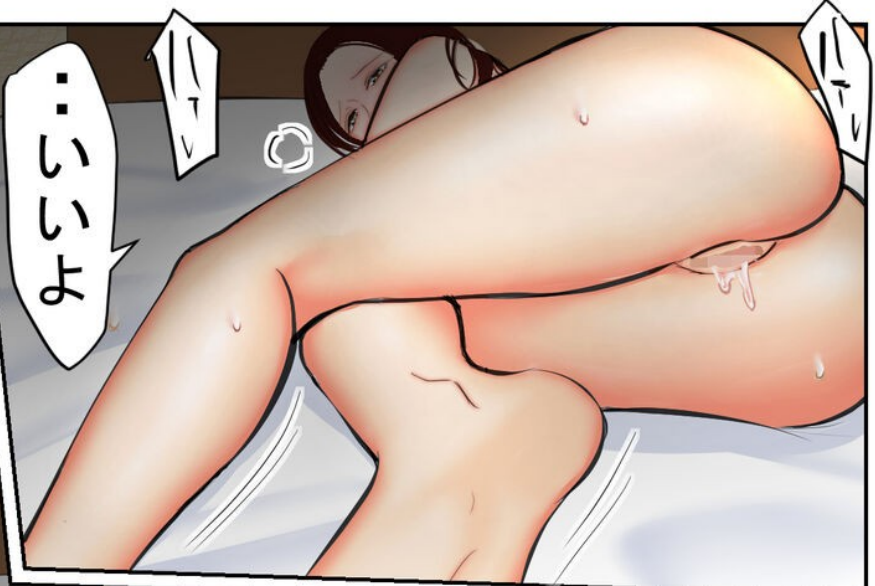
熱いのが  
...少し



やべっ  
膣内に少し



奥まで



...いいよ



いっぱい



えっ

膣内に

結衣さんっ



ガッ  
あーっ

きてっ

アツシ君



ああーっこれっ

結衣さんのおっぱい

キレイなおっぱい

結衣さんの

好きに

いいよっ



あーっ  
あーっ

あーっ

あーっ

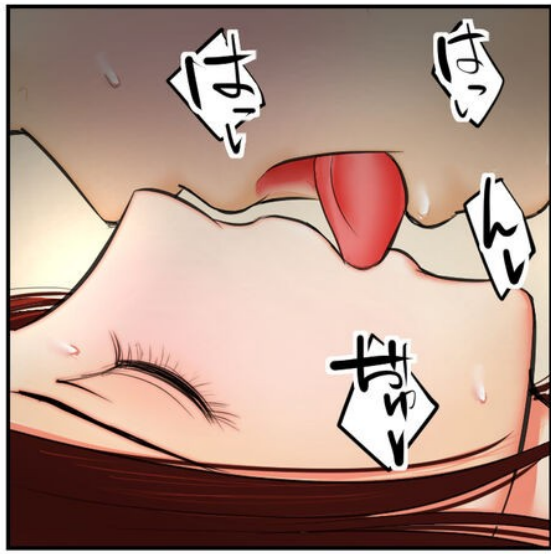
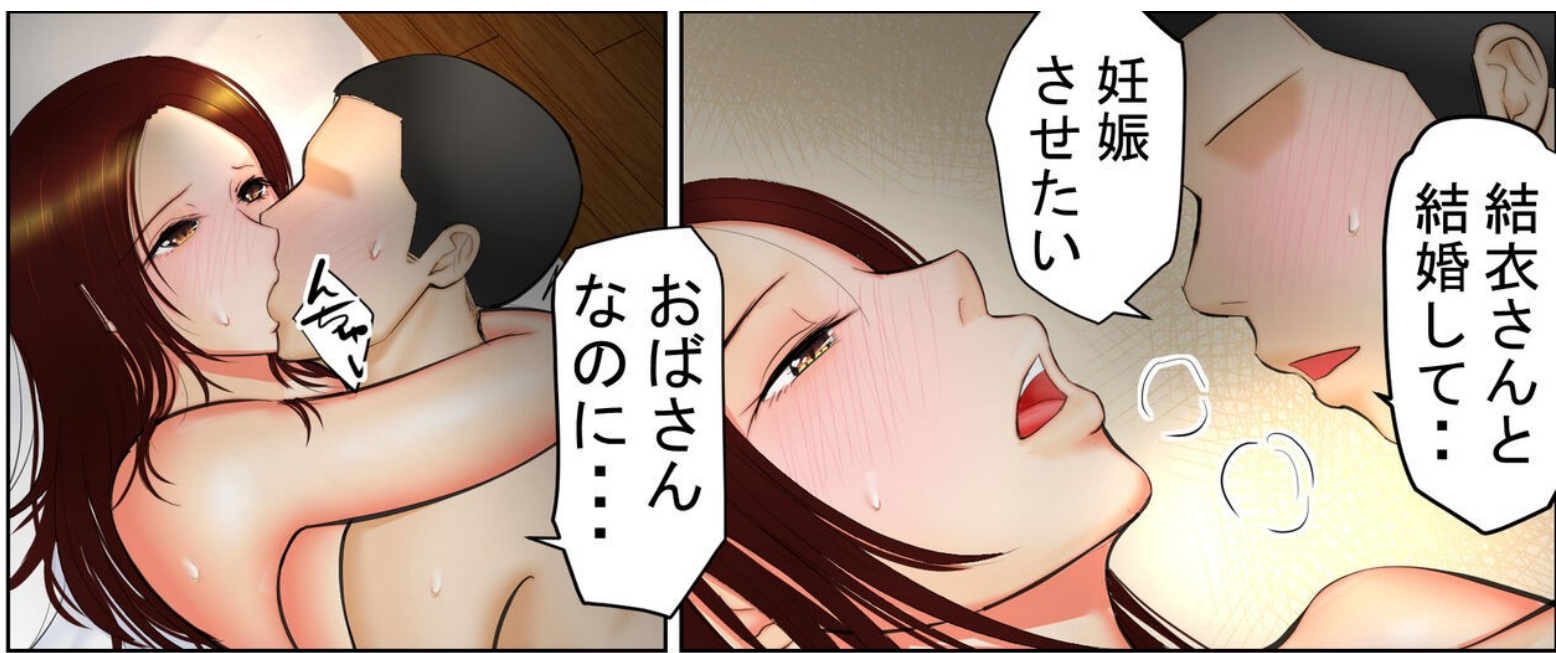
あーっ

あーっ

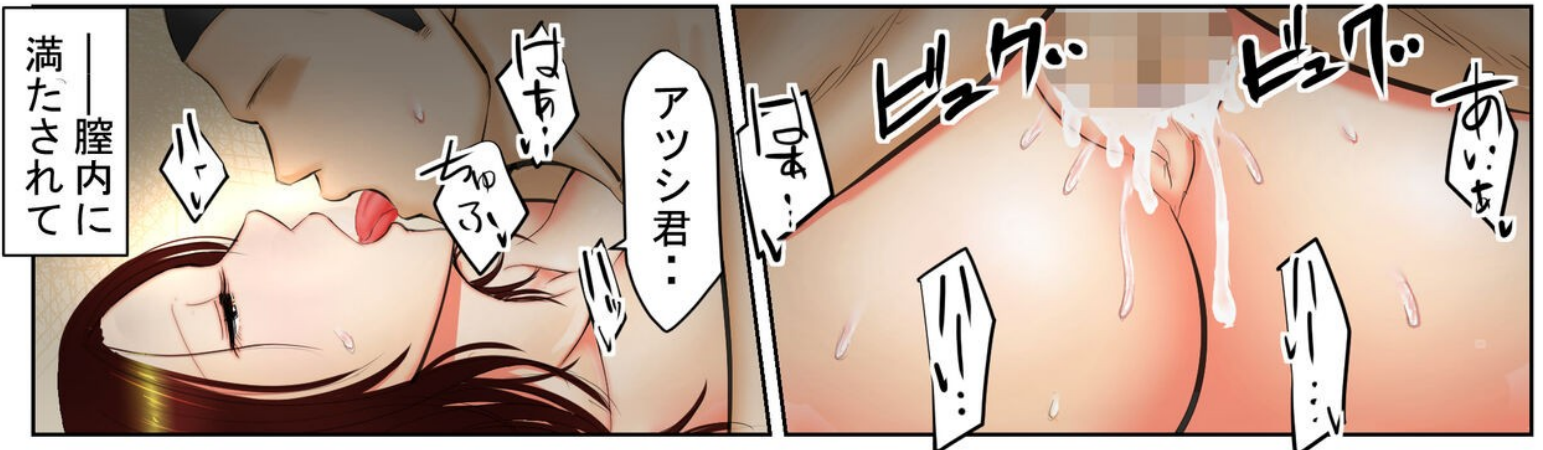
あーっ

あーっ









— 膣内に  
満たされて

アツシ君...

あーいっ  
ビュッ  
ビュッ



その時は何も  
考えられませ  
ん  
でした—

膣内に—  
こんなに

ただアツシ君と  
一緒にいたい  
としか

あーいっ  
ビュッ



それが叶わなかつた  
としても—

END